

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館2階		
所在地	静岡県清水市高橋2丁目9-15		
自己評価作成日	令和2年8月24日	評価結果市町村受理日	令和2年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274202528-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274202528-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とこやまケアなるもので、お客様の尊厳を守り、お客様中心のケアができるように職員一同、日々協力して努めています。また、ご本人様だけではなく、ご家族様にも「浪漫館に来てよかった」「浪漫館に預けてよかった」と思っただけのように、季節の行事や企画等を開催し、その時の写真やお話を毎月の手紙で伝えています。デイサービスに在籍する栄養課やリハビリ職員等の協力を得ながら、おいしい食事やお客様が過ごしやすい姿勢や日々の体操等を教えていただき、コロナで今までのように外出できない今だからこそ、楽しめる工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の異動で着任した管理者は何事も丁寧で、例えば運営推進会議におけるメンバー参加が少ない回には、改めて追加開催して目的に準じています。またコロナ禍となり階下のサービスとの交流が難しくなった利用者の余暇配慮から1日の過ごし方を見直したり、利用者に関わる時間を増やすために業務割を改良しています。他にも誕生日企画と銘打って、花が好きな利用者には近所の花屋さんと一緒に出かけ、鮮やかな赤色のペゴニアを選んだ日もあります。そのようなひたむきさを家族も認めているのか、「里から送ってきたから」とサクランボが届けられたり、新人職員にも前向きな発言が見られ、頼もしい限りです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で湖山グループの理念やこやまケアを唱和し、職員で共有している。また、職員トイレ等に今月の活動を掲示して、日頃から気に掛けるように努めている	こやまケア委員2名が中心となり、掲示をはじめ会議内での実践発表がおこなわれています。職員への動機づけが日々成されていましたが、コロナ禍で会議が縮小となったことから、管理者が朝礼等少しでも伝えることができる場で話材として提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	朝晩のあいさつの徹底はもちろん、運営推進会議やデイサービスに来ていただける慰問の方々を通して地域交流を図っている ※コロナ対策で今年は運営推進会議は中止にしている	「本を読みたい希望があれば図書館に行く」といった何気ない日常や、階下のデイサービスでの交流、ボランティア訪問も現在は中止していますが、それでも晩酌を継続している人とは地域の酒屋さんに出かけたいとして、緩和の度合いを見計らっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設14年を経て、地域への浸透も進み、デイサービスのお客様関連も含めご家族様からの直接相談が増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年から開催時間を変更した。昼間と夕方交互に開催することにして、参加していただける方を増やす取り組みをおこなっており、各種報告や意見交換の中からサービス向上につなげている ※コロナ対策で今年は運営推進会議は中止にしている	自治会長、民生委員、地区社協などをメンバーとして偶数月の隔月開催がおこなわれてきましたが、2月からは中止としています。開催時間を工夫する等真摯に取り組んでいただけに残念ですが、中止にあたってはメンバーに書面で知らせ、理解を求めています。	2ヶ月分の活動内容をまとめ、資料をメンバーに届けるとともに意見を仰ぎ議事録にまとめることで書面開催を確立させていくことを期待します。また終息が見えないことから、電話やはがきで関係継続を図れたら、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出や相談事項等はなるべく電話や郵送で済ませず、行政窓口へ直接足を運び、関係性を築いていけるように努めている	寛ぎスペースとして当初つくった和室が小上がりで高さに難があることから使用頻度が低かった為、本年度から緊急時のショートステイ(短期入所)として稼働することになり、その手続きについて市役所窓口には諸所相談にのってもらえ、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。3か月に一度は身体拘束に当てはまるケアがないか確認し、身体拘束0宣言を掲げている	階下にあるデイサービスと合同のリーダー会議後に、身体拘束等の適正化に向けた対策を検討する委員会を定期開催しています。「待ってね」のスピーチロックは気になることとして会議でもあがり、委員が資料を作成して勉強会を実施、是正に結ばれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、ご本人を尊重したケアに努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長や管理者が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、誰もが職員等に見られることなく気兼ねなく記入できるようにしてある。 また年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている	法人が年1回おこなう利用者(家族)アンケートには掃除をはじめ忌憚ない意見をあげてもらえているため、一つひとつ解決にあたっています。「面会時間は10分で玄関先(2階には上がらない)」と制限があるも、「会えること」「話すこと」を大切にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている	個人面談は最低でも年2回ありますが、コロナ禍となってから職員間での会議は実施されていません。アンケートを通じて意見を集約し、リーダーが核となって改善に向けたプランを構築しています。管理者も現場に入ることから、都度気づいたことは伝えて意見交換ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。最近ではiPadの導入の検討等職員の意見を聞きながら「業務のスリム化」を進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。研修に参加する職員のバックアップがあり、研修に参加しやすい環境が作られている ※コロナ対策で現在はリモートでおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所への支援やケア評価等を通じて交流を図っている ※コロナ対策で他事業所への支援や行き来も中止にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為にご本人様の自宅等を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に自宅等を訪問し、ご家族様の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要な情報をお聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ出しや洗濯物たたみなどの家事を入居者様と一緒にしている。また別階に用事等もお客様とお話ししながら一緒に行くようにしている。誕生日の方にはプレゼントやケーキでお祝いするなどして良い関係づくりを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話等で報告や相談を行うようにしている。またなかなか来所いただけないご家族様にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。運営推進会議や年2回のホームパーティーも開催している ※コロナ対策でホームパーティーも今年は中止		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時はお話が楽しめる様な空間づくりに配慮している	自宅で常飲していた健康飲料や好みの栄養食品は家族の協力を得て継続しており、晩酌をはじめ本人の食べたいもの、したいこと、これまでしていたことが日常に在るよう支援しています。県外に住む家族から毎日のように便りが届く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかに過ごしいただけるような配席にしている。また集団でのカラオケや企画、レク活動も実施し、孤立しない環境を作っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居になった場合でも、今後のご家族様の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族様と相談している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人様の様子、ご家族様の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。またその希望を職員が共有できるよう努めている	誕生日企画と銘打って、「何が欲しい」と尋ねていますが、大半の利用者が「なんでもいい」との返答でやや残念です。それでも家族にも聴いて「花が好きだったから…」と、近所の花屋さんに職員と出かけ、鮮やかな赤色のペゴニアを選んだ例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族様より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は生活記録や申し送り等に落とすようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、医師、ご家族様の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている	職員情報を的確に集めるよう、モニタリング用紙を配付、全職員が9名分を作成して、「チームでつくる」につなげています。また、介護計画書は本人が伝わる内容であり、「マスクをして短時間で買い物ができるように支援」というように、新人職員でも把握しやすく明記されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録と別にプランの達成を図る仕組みを取り入れたり、申し送り、インシデント用紙を利用して職員同士で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設や事業所で働いていたことがある職員の知識や経験を取り入れ、かわいらしい壁画作りや新しいサービスに挑戦している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ入居者様にも参加してもらえるように努めている。近くのコンビニや薬局などに一緒に買い物行ったり、図書館や外食することもある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、医師とともに入居者様の心身に合わせた医療を提供している	2つの協力医による月2回の訪問診療には原則ユニットリーダーが立ち合い、管理者・介護支援専門員が勤務日ならば同席して「往診記録」に医療情報を残しています。家族への報告は緊急性があれば電話で、そうでなければ毎月の便りにつけ加えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、日々の健康管理や適宜必要な処置が受けられる体制がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時は管理者やケアマネ等が病院に向き、状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族様の協力を得ながらチーム全員での支援に努めている	コロナ禍でも1名のお見送りがあり、偲びのカンファレンスに代えてアンケートで想いを共有しています。県外にいる孫たちが毎日便りを届けてくれ、また市内在住者であることや時間制限などを前提に近親者にも会えてもらえ、「浪漫館でよかった」との言葉も入っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会で、緊急時対応等の学習の場も設けている。往診の先生や訪問診療医は夜間も対応可能である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練や年1回の水害訓練、夜間想定訓練は行いが、実際に夜間の招集訓練や通報訓練は未実施である	「コロナ禍であっても丁寧に実施したいとして、消防署に立ち合いを求めたものの叶わず、5月には水害想定で、9月には火災想定の水消火器を5台使って取組み、次回は3月を予定しています。備蓄は室内の収納スペースのほか、外の倉庫にも確保しています。	訓練では新採者2名が加わるようシフトへの配慮がありますが、今後はオリエンテーション時に避難経路と通報装置のみ案内確認を済ませておくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている	接遇の勉強会を年間計画に組み込み、また「考えるきっかけとなれば…」と、資料とともにアンケートを配布してもいます。入浴では脱衣スペースで待ったり、髪をかかわかす他の人がいるということはないよう配慮あるケアサービスが励行されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずご本人様にお聞きしてから支援するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日等でお客様に似合いそうな洋服をプレゼントすることもある。また、毎日の洋服を決める際は職員と一緒に選ぶなどして、ご本人様を選びやすい環境を作っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方にあった食事の提供方法をリハビリ職員に評価してもらっている。その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている	栄養課の調理師が目にも楽しい献立を提供しており、笹やススキ、スイカ割といった季節を彩るものを導入して、おやつも手作りに努めています。コロナ禍で「一緒につくる」ことは止めていますが、それでも利用者は「やるよ～」と元気よく食器拭きを手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に食事量と水分量を個々に記録、管理している。デイサービスの栄養課が調理した手作りの料理を提供し、彩りから美味しい料理の提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台で口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パン利用のお客様も何名かいるため、排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している	布パンツで過ごすことができる3名は完全に独立していますが、その他は見守りを含み介助が必要です。総じて状態が良いだけに尿意がなくなるなどの変化への対応もありますが、利用者本人が気持ちよく過ごせることを大切に、「トイレで」を常に目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレク活動の中で体操をおこない、体を動かしてもらっている。また、医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの時間や温度で提供している。入浴を楽しめるものにするため入浴剤を使用して喜んでもらっている	最低でも週2日は入ることができるよう、希望する時間帯や湯音に配慮して声をかけています。「毎日入りたい」や同性介助にも応え、入浴剤も好みで使用しています。湯船につかると「富士山はどっち」と確認して富士山の歌を気分を高めてうたう利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り等で周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	駐車場の横にある畑を見に行ったり、買い物や図書館へ一緒に行ったりしている。年間通じての企画では、お誕生日企画や、外出企画など、様々な機会を提供している ※コロナ対策で外出、外食企画中止にしている	初詣、花見、清水の七夕まつり、大型遠足(水族館等)の恒例外出行事に加えて、「日曜日にはドライブに行こう」を合言葉に、コロナ禍前には実施目前でしたが、現在は花壇や、隣りにある畑の生育具合をフェンス越しに眺めたり、庭での土いじりや周辺散歩に留まっています。	日曜日ドライブ企画は、「降りないドライブ」にて実施されることを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人としてご利用者様の現金の持ち込みはご遠慮いただいているが、外出の際には、可能な方には立替金お財布から支払って頂き、社会参加活動を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と直接電話でお話したり、毎日のように手紙が届くお客様がいるので内容を読み聞かせ、一緒に笑顔でお話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、行事企画の写真や塗り絵、習字等の作品も掲示するようにしている	俳句や習字など以前から趣味で続けていたものは現在もリビングに掲示しています。アルコール消毒は従来の午前中のみから午後を増やし、また換気は10時、15時、17時と日に3回おこなうとともに細めに常に開けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりと過ごすような空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人様を使い慣れた物を利用して頂いている。居室にはご家族様の写真などを置き、安心して過ごして頂けるよう工夫している	見守っているかのように家族写真を壁に貼りめぐらしている人、冷蔵庫やテレビなど家財道具が豊富な人、持ち込みは其々です。転倒が危ぶまれるようになったのでベッドの位置をかえ、掴まってベッドから降りることができるように変えた居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リハビリ職員に、評価してもらったご本人様の歩行状態に合わせて、歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館3階		
所在地	静岡県清水市高橋2丁目9-15		
自己評価作成日	令和2年8月24日	評価結果市町村受理日	令和2年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274202528-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2274202528-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とこやまケアなるもので、お客様の尊厳を守り、お客様中心のケアができるように職員一同、日々協力して努めています。また、ご本人様だけではなく、ご家族様にも「浪漫館に来てよかった」「浪漫館に預けてよかった」と思っただけのように、季節の行事や企画等を開催し、その時の写真やお話を毎月の手紙で伝えています。デイサービスに在籍する栄養課やリハビリ職員等の協力を得ながら、おいしい食事やお客様が過ごしやすい姿勢や日々の体操等を教えていただき、コロナで今までのように外出できない今だからこそ、楽しめる工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の異動で着任した管理者は何事も丁寧で、例えば運営推進会議におけるメンバー参加が少ない回には、改めて追加開催して目的に準じています。またコロナ禍となり階下のサービスとの交流が難しくなった利用者の余暇配慮から1日の過ごし方を見直したり、利用者に関わる時間を増やすために業務割を改良しています。他にも誕生日企画と銘打って、花が好きな利用者には近所の花屋さんと一緒に出かけ、鮮やかな赤色のペゴニアを選んだ日もあります。そのようなひたむきさを家族も認めているのか、「里から送ってきたから」とサクランボが届けられたり、新人職員にも前向きな発言が見られ、頼もしい限りです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で湖山グループの理念やこやまケアを唱和し、職員で共有している。また、職員トイレ等に今月の活動を掲示して、日頃から気に掛けるように努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	朝晩のあいさつの徹底はもちろん、運営推進会議やデイサービスに来ていただける慰問の方々を通して地域交流を図っている ※コロナ対策で今年は運営推進会議は中止にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設14年を経て、地域への浸透も進み、デイサービスのお客様関連も含めご家族様からの直接相談が増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年から開催時間を変更した。昼間と夕方交互に開催することにして、参加していただける方を増やす取り組みをおこなっており、各種報告や意見交換の中からサービス向上につなげている ※コロナ対策で今年は運営推進会議は中止にしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出や相談事項等はなるべく電話や郵送で済ませず、行政窓口へ直接足を運び、関係性を築いていけるように努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。3か月に一度は身体拘束に当てはまるケアがないか確認し、身体拘束0宣言を掲げている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、ご本人を尊重したケアに努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長や管理者が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、誰もが職員等に見られることなく気兼ねなく記入できるようにしてある。また年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。最近ではiPadの導入の検討等職員の意見を聞きながら「業務のスリム化」を進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。研修に参加する職員のバックアップがあり、研修に参加しやすい環境が作られている ※コロナ対策で現在はリモートでおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所への支援やケア評価等を通じて交流を図っている ※コロナ対策で他事業所への支援や行き来も中止にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為にご本人様の自宅等を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に自宅等を訪問し、ご家族様の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要なお聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ出しや洗濯物たたみなどの家事を入居者様と一緒にしている。また別階に用事等もお客様とお話ししながら一緒に行くようにしている。誕生日の方にはプレゼントやケーキでお祝いするなどして良い関係づくりを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話等で報告や相談を行うようにしている。またなかなか来所しただけのご家族様にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。運営推進会議や年2回のホームパーティーも開催している ※コロナ対策でホームパーティーも今年は中止		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時はお話が楽しめる様な空間づくりに配慮している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかに過ごしいただけるような配席にしている。また集団でのカラオケや企画、レク活動も実施し、孤立しない環境を作っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居になった場合でも、今後のご家族様の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族様と相談している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人様の様子、ご家族様の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。またその希望を職員が共有できるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族様より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は生活記録や申し送り等に落とすようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、医師、ご家族様の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録と別にプランの達成を図る仕組みを取り入れたり、申し送り、インシデント用紙を利用して職員同士で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設や事業所で働いていたことがある職員の知識や経験を取り入れ、かわいらしい壁画作りや新しいサービスに挑戦している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ入居者様にも参加してもらえるように努めている。近くのコンビニや薬局などに一緒に買い物行ったり、図書館や外食することもある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、医師とともに入居者様の心身に合わせた医療を提供している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、日々の健康管理や適宜必要な処置が受けられる体制がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時は管理者やケアマネ等が病院に出向き、状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族様の協力を得ながらチーム全員での支援に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会で、緊急時対応等の学習の場も設けている。往診の先生や訪問診療医は夜間も対応可能である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練や年1回の水害訓練、夜間想定訓練は行うが、実際に夜間の招集訓練や通報訓練は未実施である		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずご本人様にお聞きしてから支援するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日等でお客様に似合いそうな洋服をプレゼントすることもある。また、毎日の洋服を決める際は職員が一緒に選ぶなどして、ご本人様を選びやすい環境を作っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方にあつた食事の提供方法をリハビリ職員に評価してもらっている。その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に食事量と水分量を個々に記録、管理している。デイサービスの栄養課が調理した手作りの料理を提供し、彩りから美味しい料理の提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台で口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パン利用のお客様も何名かいるため、排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレク活動の中で体操をおこない、体を動かしてもらっている。また、医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの時間や温度で提供している。入浴を楽しいものにするため入浴剤を使用して喜んでもらっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体の状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り等で周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駐車場の横にある畑を見に行ったり、買い物や図書館へ一緒に行ったりしている。年間通じての企画では、お誕生日企画や、外出企画など、様々な機会を提供している ※コロナ対策で外出、外食企画中止にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人としてご利用者の現金の持ち込みはご遠慮いただいているが、外出の際には、可能な方には立替金お財布から支払って頂き、社会参加活動を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と直接電話でお話したり、毎日のように手紙が届くお客様がいるので内容を読み聞かせ、一緒に笑顔でお話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、行事企画の写真や塗り絵、習字等の作品も掲示するようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりとんびり過ごせるような空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人様を使い慣れた物を利用して頂いている。居室にはご家族様の写真などを置き、安心して過ごして頂けるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リハビリ職員に、評価してもらったご本人様の歩行状態に合わせて、歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている		